

(2) けいれんを起こした



ワンポイントアドバイス

あわてて抱き上げてはいけません

お子さんのけいれんに気付いたら、あわてて抱き上げたり、ゆすったり、叩いたりしないでください。また、呼吸がしやすいように衣服をゆるめ、吐いたもので窒息しないように、顔を横向きにしてあげてください。



口の中にもものを入れるのは、誤った処置です

舌をかまないようにと、口に指やタオル、割り箸などを入れないでください。舌を奥に押し込んで窒息を起こす危険があります。

けいれんが続いた時間を計りましょう

けいれんが起きた時間から治まった時間をチェックし、けいれんの持続時間を計っておくとよいでしょう。

けいれんが治まったら、必ず体温を測りましょう

高い熱が出たときに起こる「熱性けいれん」は心配ありませんが、熱が38度以下で起こるけいれんは、注意が必要です。そのため、けいれんが治まったら、必ず体温を測るようにしてください。

症状に応じた対処法

● 熱が38度以上あり、けいれんが1回程度で、目を開けて呼びかけに反応したり、泣いたりしている

● 赤ちゃんの月齢が6ヵ月未満
● はじめてけいれんを起こした

● けいれんが10分以上続く
● けいれんが治まった後、呼びかけに応じず、意識が戻らない
● 断続的に2回以上けいれんが起こる
● けいれんが右半身、あるいは左半身に強い(左右対称でない)
● けいれんとともにおう吐を繰り返す
● 熱が38度以下でけいれんを起こした

「はい」が一つもない

「はい」が一つ以上

様子を見て、昼間の診療時間内に、かかりつけ医などを受診しましょう



夜間休日救急診療所を受診しましょう



救急車を呼びましょう

